



案内猫 笠やん (撮影・森 義久)

かつて笠置山には観光客を案内するちょっと不思議な猫がいました。その名も「笠やん」。この冊子の中にたびたび登場する「イカす案内猫」は、笠やんをモデルにしています。

1990年頃から笠置山に住みつき、笠置寺の行場を自由気ままに案内してまわる様が愛くるしく、笠やんを訪ねわざわざ遠方からやってくるファンもいたほど。94年2月2日に惜しまれながらこの世を去った笠やんに、ここでふたたび大好きな笠置を案内すべく登場していただきました。



笠置町 探られる里プロジェクト

アドバイザー

白井 千遙 (コピーライター)
山崎 亮 (studio-L)
醍醐 孝典 (studio-L)

笠置町 企画観光課

山本 和宏
小林 廉純
長谷川 瑛司
矢野 邦彦

京都府 自治振興課 藤岡 栄 (まちの仕事人)

プロジェクトスタッフ

西上 ありさ 丸山 健
井上 泰孝 井上 瑶子
大川 恵理子 西崎 真実
藤原 麻未

笠置のイカした生き方帖

発行日：2014年3月31日

発 行：笠置町 企画観光課

京都府相楽郡笠置町大字笠置小字西通 90-1

電 話：0743-95-2301

F A X：0743-95-2961

U R L：<http://www.town.kasagi.lg.jp/>

トータルディレクション／ studio-L

執筆／ 笠置町 探られる里プロジェクトメンバー・ studio-L

デザイン・ イラスト／ みやた しろ

編集／ studio-L・井上 瑶子

印刷／ 巧美堂印刷株式会社

笠置の里を探り、見えてきたもの。

それは、「いかす」精神。

京都府相楽郡笠置町は、日本で二番目に人口が少ない町※。

しかしここには、自然と歴史と人とが共存する、

大らかで豊かな暮らしが息づいてきました。

その根底にある笠置の魅力は、一言でいうと「いかす」精神。

自分に環境を合わせるのではなく、神様の宿る自然ができるだけ「活かした」暮らし。
まわりと支え合いながら、人や物を、そして時には猫の手さえも「活かしていく」知恵。
笠置の里を歩き、この土地の人びとに出会って初めて見えてきたもの。

そんな控えめだけれど「いかして」暮らし方、生き方を紹介します。

これから急激な人口減少社会をむかえる日本。笠置の「いかした」生き方には、
これからの社会を考えるための最先端のヒントが秘められているかもしれません。

※平成二十六年一月現在

笠置町 探られる里プロジェクトとは

笠置町内外の人が協力し、新たな視点で見つけた町の魅力や資源を、冊子にまとめるプロジェクト。年齢も興味もばらばらの参加者が集まり、町を歩き、町の人に話を聞きながら、笠置の隠れた魅力を発掘しました。

2013年11月4日

台風の影響で1週間遅れて始まった探られる里プロジェクトの第1回ワークショップ。日程変更にもかかわらず笠置町内外から30名以上の参加者が集まり、南部区と切山区の魅力探しをしました。



2013年11月24日

第2回ワークショップでは、北部区・西部区・東部区・飛鳥路区の魅力探しへ。町の人々話を聞くことを意識して行ったフィールドワーク。地域の人の話を聞いて初めてわかる、笠置ならではの生活や習慣、知恵が見えてきました。



2013年12月22日

回を重ねることにチームワークを發揮し、同じ価値を共有できる仲間へと発展してきた、第3回ワークショップ。これまでに見つけた魅力を班ごとに振り返り、「発信したい魅力とテーマ」を決めました。



2014年1月

次のワークショップまでに足りない素材を集めたり、再度取材に行ったりと、まとめ作業のラストスパート。各班が自主的に集まり、個別ワークを行いました。



2014年1月26日

最終回の第4回ワークショップ。それぞれの班で、発信したい魅力を1枚の模造紙にまとめました。ワークショップの最後には、見つけた魅力を活かして、今後どんな取組みができるかについて話し合いました。



2014年3月23日

各班のまとめから完成した冊子のお披露目会。お世話になった笠置町の住民を迎え、プロジェクトの報告後に、参加者が各地域を紹介する「笠置ツアー」を開催しました。



目次

笠置町探される里プロジェクトとは	1
笠置町全体図・目次	2
笠置町とは?	4

第一部 習わしを受けつぐ生き方

力サギロックフェスティバル	6
潜入! 飛鳥路	8
あつたかさぎの和、輪、わー!	10
切山の富士山信仰「富士垢離」	12
笠置は山の中のベネチア?	14
水と斜面の笠置ライブ	16
笠置の知恵の美のわわ	18
笠置町南部青年団つて?	20

笠置町 MAP

第三部 自分でつくる生き方

食の里、切山	22
人と歴史のミュージアム	24
笠置の名店 今昔話	26
笠置に行きたくなつたら	27
メンバーの感想	28



笠置町とは？

自然と歴史が調和する町

京都府の最南端にたたずむ小さな町、笠置町。南には町のシンボルである笠置山、北には国見岳に連なる山々がせまり、中央を東西に木津川が流れています。地形全体が渓谷のような様相でいたる所に巨大な岩が存在。河川敷での川遊びや、笠置山へのハイキングなど、観光やレジャーで親しまれています。四季折々の豊かな自然と、古くから続く歴史や伝統が調和する町です。



町の面積・23.5km² 人口・1,576人
(平成26年1月1日現在)

<年間行事、風物詩> 笠置には四季それぞれにとっておきの見所があります。



さくらまつり

笠置駅と木津川河川敷一帯は、桜が咲き誇り、山々が薄紅色に染まります。4月第1土曜日または日曜日に開催。



夏まつり

山々に囲まれ打ち上げられる花火は、豪快な音が響きわたり、迫力満点。8月第1土曜日に開催。



灯籠流し

昭和37年より続く灯籠流し。約800基の灯籠が川面に幻想的な情景をかもし出します。毎年8月16日に開催。



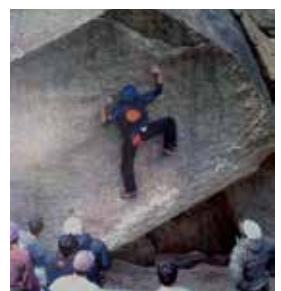
もみじまつり

笠置寺境内のもみじ公園では、艶やかに色づくもみじが楽しめます。11月第3土曜日または日曜日に開催。



全国ご当地鍋フェスタ

全国各地のご当地鍋を一堂に味わえる毎年大盛況の鍋フェスタ。12月第1曜日に開催。



ポルダリング

巨岩奇石が多い笠置町。巨石信仰が息づく町で、ポルダリングに挑戦してみては？通年可能。





笠置山と笠置寺

笠置山は、笠置町の木津川南岸にあり、標高一八八メートル、点在する巨大な岩を神の聖地だった。笠置寺のご本尊は、高さ十五メートル、幅十二・七メートルの弥勒磨崖仏。後醍醐天皇の時代、元弘の変（元弘元へ一三三一～年）の際には兵火によって全山焼失したが、形ある巨石は今なお微動だにせず、今日の私たちに何かを伝えようとしている。

笠置寺の本尊は、高さ十五メートル、幅十二・七メートルの弥勒磨崖仏。後醍醐天皇の時代、元弘の変（元弘元へ一三三一～年）の際には兵火によって全山焼失したが、形ある巨石は今なお微動だにせず、今日の私たちに何かを伝えようとしている。

古来より信仰されしロック魂。自然によつてつくられた造形は圧巻！

山と言えば…空気がきれい!! や景色がきれい!! などがあるが、やっぱり一番はロック(岩)!! そうじゃないと思う人も行けば分かるだろう、笠置山のロック魂。今回は、注目のロックを六組厳選して紹介!! しかし、写真ではこのロック感は二割ほどしか伝わらない…。そこでテーマソングには、クイーンの「WE WILL ROCK YOU」がおすすめだ。最近パワースポットとしても注目を浴びつづる笠置山に足を運ぶのは今しかない!!



1. 六角堂跡

まさにロックフェス!! この中には、興福寺僧侶の解脱上人・貞慶との深い歴史が存在した…。あの閻魔大王の使者が現れた場所なのだ。



4. 伝虚空蔵磨崖仏

人類滅亡後も永遠に残り続けるであろうこの菩薩の刻まれたロック。しかし、見とれすぎて転ばないように足下に注意が必要。



5. 龜型岩

メジャーなものではないが、笠置寺境内の中にこれを見つけることができれば、真のロックファンになれるだろう。



6. 蟻の戸渡り

昔の僧侶たちが修行を繰り返したパズルのロック。一見、狭い道をかいくぐるだけに見えるが、裏側にこそ真の道がある。



笠置寺のことを最も知る人物、山寺の和尚さんこと小林慶昭さん。笠置寺のことを知りたければこの人しかいない。最先端のタブレット端末を片手に案内してくれるだろう。岩に囲まれて育った真のロックンローラーなのである。



雑料理は笠置山にある料理旅館「松本亭」で食べることができる。ロックを見る前にぜひ、一度お立ち寄りを。ちなみにきじ釜飯がおすすめだ。

M
ロック魂!

山寺の和尚さん

奈良とのつながり

笠置寺の本堂が正月堂で、東大寺には二月堂、三月堂があるよう、笠置は奈良とのつながりがとても深い。買い物は奈良、市外局番も奈良。かつては奈良の僧も修業したとか。二つの文化が交わる場所、それが笠置なのだ。



KASAGI
ROCK
FESTIVAL!!



潜入！飛鳥路

（昔から伝統行事に参加して、その魅力について調べてみたよ）

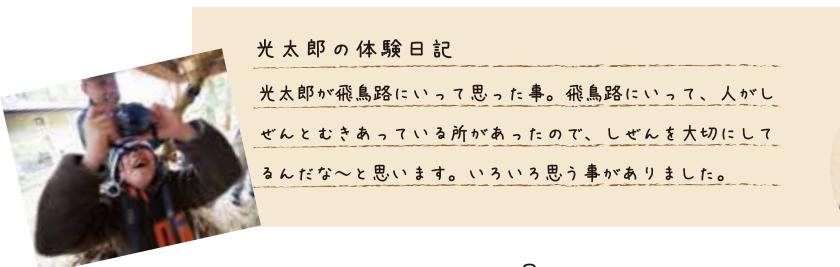
布目川の勧請縄

飛鳥路では、新年に布目川が流れている渓谷に「勧請縄」が掛けられます。布目川は北向きで昔から続けられているのだそう。

勧請縄は、正月の朝に地元の人々が集まり、前年の秋に穫れたもち米の藁を編んでつくります。縄には鍬や鎌、鋤などの農機具や、あわじ結びでつくられた房などの飾りが吊るされます。新しい勧請縄を布目川にわたし、大木に結ぶと心も引き締まるとのこと。今年一月五日に行なわれた勧請縄づくりについて、参加した小学三年生の光太郎くんのコメントつきで紹介します。



天照御門神社の北隣、古くは天平時代から室町時代までの写経記録が残る東明寺。奈良時代のものが数十帖ほど含まれている点で珍しい。写真は、落の全世帯が集まり、太鼓やホラ貝の音を鳴らす。一年の豊作を願つ「虫送り」の儀式。（マップ③）





石川惣代治さんに
聞きました

あ、たかさぎの和、輪、わあ！

千年以上続く
つながりの和、庚申講



笠置町に生まれ育ち、三十五年間町役場に勤めて、東部区の暮らしや習わしに詳しい石川惣代治さん。そのお話を伺つて浮かび上がったのは、笠置の人の習慣や文化が、今なお地域の人びとをつなげています。自然と共に生きる人の和や輪。そしてたくさんの「わあ！」と驚く「人の和づくりが残る町」を紹介します。



野菜などで人型をかたちづくり、かつてお宮へ献上したという品。

「山の神」がつなぐ伝ぐり
講でおまつりする軸。頭屋にあたる家が60日間保管する。

笠置町の東部区には、平安時代の貴族社会に始まり、江戸時代に一般住民にも伝わった「庚申講」が今も残っています。六十日ごとの申の日に頭屋に集まり、信仰の対象である掛け軸をおまつりして講会を行ないます。「それはコミュニケーションの拠点としての役割も担っているんですよ」と石川さん。昭和二十年代の半ばまでは、野菜やこんやくを串刺しにしたお宮への献上品も、協力してつくっていたそう。こんな人のつながりが、ずっと続いているといいな。



「出会い」で常にきれいに掃除されている川や水路。

「出会い（奉仕作業）」は毎年九月の第一日曜日に行なわれるもので、区民総出の水路整備などの取組みのこと。東部区の六つの隣組ごとに、担当する地域が割り振られ、各自で道具を持つて、川や水路、国津神社などの神事の際などに、担当する地域が助け合って生きた時代。まるでそんな時代の心の豊かさに出会える、東部区の「出会い」の組みです。（マップ①）

平安時代に編纂された歴史書『日本三大実録』にもその名が記されるほどの中緒正しき国津神社。例祭や節分祭など年に五つの大祭が行なわれています。十月の秋まつりでは、小学生によるみこしが出るほか、その年に十九歳となる男子が、生まれて間もない幼児を抱く「稚兒泣き相撲」の神事なども。「簡略化されたいた行事をあらためて正式なかたちで執り行ない始めた二十年。これからも力を合わせて続けていきたい」と氏子総代長の谷喜太郎さんは話してくれました。（マップ②）



氏子総代長の谷喜太郎さん。



国津神社での節分祭の様子。



本殿には御神木の杉の木がそびえる。

『日本三大実録』にも 登場する国津神社

平安時代に編纂された歴史書『日本三大実録』にもその名が記されるほどの中緒正しき国津神社。例祭や節分祭など年に五つの大祭が行なわれています。十月の秋まつりでは、小学生によるみこしが出るほか、その年に十九歳となる男子が、生まれて間もない幼児を抱く「稚兒泣き相撲」の神事なども。「簡略化されたいた行事をあらためて正式なかたちで執り行ない始めた二十年。これからも力を合わせて続けていきたい」と氏子総代長の谷喜太郎さんは話してくれました。

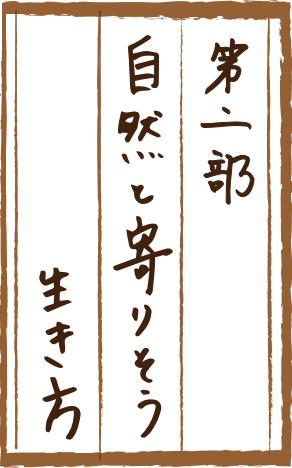
切山の富士山信仰「富士垢離」

「富士垢離（ゴーリー）」とは？

世界遺産にも登録された富士山。かつて噴火を繰り返した富士山は自然崇拜の対象としてあがめられてきました。そんな山に何度も登った修験者の一人、末代。末代は、修行中に浅間大菩薩（大日如来）のお告げを受け、現在の富士宮市村山に寺を建てたとされています。末代を開祖とする村山修験においては、「富士山まで参詣せずとも、同じ徳を得ることができる」として、西国などで代参が行なわれました。それが「富士垢離」です。



江戸時代になると衰退の一途をたどる村山修験が、この切山の地に根づき、今もなお受け継がれているという点で、とても珍しい行事です。



今も切山で行なわれている「富士垢離」の行事

「富士垢離」は1月15日・16日の「寒垢離」と、7月31日・8月1日の「土用垢離」の年2回。浅間神社が合祀されている、切山地区の八幡宮境内にて行なわれます。以下は今年の「寒垢離」のようすです。



①白装束の行者は、列をなしで浅間神社へ向かい、神前に御神酒、洗米、壇、行燈を供えます。一日目には、浅間神社横にある御神木に沿わせて土を積み、篠竹で作った御幣を刺し、注連縄をかけます。御幣は執り行う人数分を刺し、神様にこれから行を行なうことをあいさつするそうです。



②垢離場の「浅間の井戸」へ。一人ひとりが口に水を含み身を清めたら、宮守の合図で一音に手で水を払いながら拌みの言葉を三十三回唱えます。それを一垢離として二回繰り返します。



③二垢離目も終わると、浅間神社へと移動。二拍手一礼のち拌みの言葉を五回唱え、二拍手一礼して龍堂へ。



宮守は一年ごとの交代制。年に一回、一日にお宮の掃除を行ない、この富士垢離のための一年間のお米もつくっています。行事を続けていくことは大変。日にちや形式を少し変えながらでも、貴重な習わしを残していくたいと続けられています」と氏子総代のみなさんは話してくれました。

④浅間神社から賜ったという掛け軸がつるされた床の間の祭壇に向かい、拌みの言葉と地域の神々への願文を唱えて、二垢離が完了。一日目の午前と午後に二垢離ずつ、二日日の午前に二垢離、午後に一垢離を行なって終了です。





笠置は山の中のベネチア？

国内でも珍しい、
閘門式の運河が笠置に！？

江戸時代から、木津川上流地域と現在の京都・大阪とを結ぶ中継地として栄えた笠置。当時は北と南に浜があり、上流の南山城村大河原方面から小型の高瀬船で運ばれた荷物を、上荷船などの帆掛け船に積み替えて消費地へと運んだそう。大正期に入ると、昭和三十年頃まで、大河原からの遊覧船の船下りで、笠置も一躍有名に。急流で大小の岩間をぬうためスリル満点だったとか。

運河といえばパナマ運河など有名だが、なんと笠置にも閘門式の運河を発見！相楽発電所のあたりは木津川の水位が大きく変化するため、閘門の開閉などで水位調整をして航行していたのだとか。



発電所前の運河。現在は使用されていないが、手前のトンネルをくぐると扉が閉まり、閘室の水位が上がり、上流へと進める仕組み。（マップ①）



上荷船



かつての伊賀街道は川の中！？

水運の一方で、大和と伊賀とを結ぶ主街道として古くから利用されたのが伊賀街道。奈良時代以来の街道で、伊勢への参宮道や官道としても多くの人の往来があった。ちなみに日本三大仇討の一つといわれる「鍵屋の辻の決闘」で、荒木又右衛門は決闘の地へと向かうのに、この街道を利用して、有市の大杉の前で休憩したという言い伝えも。笠置の船着場からは、炭や薪、米などが船で運ばれたが、笠置浜は二十石船が陸上できる最上流の浜のため、笠置方面へは荷を牛車に積み替えて、陸路が使って運んだそう。

木津川河岸の絶壁を拓き、明治三十年に伊賀街道の新道が開通するまで、北笠置から有市間は峠を越えるルートだったが、その旧道について有市松本俊清さんや地元の方々に話を聞くうち、浮かび上がったのは驚きのルート。かつての道は今は川の中に沈んでいるとか！その真相やいかに？



松本さんたちと、旧伊賀街道の探検調査へ出発！

草を分けてダイナミックに河原を進む調査隊。

いざ河原へ降りると、川の中には平らな石がちらほら。「昔はここが伊賀街道だったと言話を聞き、自分もよく遊んだ」と松本さん。



フジタカヌー代表の藤田亮さん（左）
と清さん（右）。



川から見える笠置の自然。険しい地形や岩山は、ここでしか出合えない風景として、今多くのファンに愛されている。

雄大な木津川は、現在はカヌー遊びのスポットとして親しまれている。その仕掛け人はフジタカヌーの初代代表で、現在は日本カヌー普及協会の会長を務める藤田清さん。ドイツ製カヌーを日本に持ち込んだ高木公三郎氏と出会い、木津川下りに魅了された清さんは、昭和五十一年にフジタカヌーを笠置に設立。現在は二代目の亮さんが、カヌーづくりとカヌー普及のイベントなどに精力的に取り組んでいる。

木津川の魅力はなんといつても豊かな自然。迫りくる川からの景色、岩の壮大さ、希少植物と出会える喜び…。カヌーは初心者でも気軽に楽しむことができる、ベネチア顔負けの水の里・笠置で、先人もほれ込んだ自然と歴史を、ぜひ体感してみては？

遊びカヌー発祥の地で、
川からしか見えない
自然を楽しもう！

③北笠置の浜の歴史に詳しい、山田治郎さん。水運の歴史やかつての北笠置の賑わいについて教えてくださいました。

⑥かつての伊賀街道と北笠置・有市の習わしなどについて教えてくださった勝樂寺のみなさん。左から、鎌田つた子さん、松本俊清さん、山本隆清さん。

笠置町 MAP
<北部区～東部区>

調査隊が歩いた伊賀街道ルート説
その他の伊賀街道ルート説

②かつて伊賀・伏見からの物資の荷降ろしをした北浜。向こう岸が南浜。

④旧伊賀街道沿いには、江戸時代、宿や遊郭、酒蔵などが立ちならんで栄えた。



水と斜面の笠置「ライフ」

あなたはいくつ
見つけられるかな？・

高低差を逆手にとる

笠置町は木津川が横切り、高低差が著しい地形だ。しかも町内には生活や農業を支える水路も縦横に走り、まるで水と斜面とともに生きている。昭和九年から六十一年のあいだには、いく度となく水害の甚大な被害を受けたほどだ。

洪水から生活を守るにはどうすればよいのか…。笠置に暮らす人びとの家々を見て歩くと、高低差の激しい斜面の地形を逆手にとった建築方法を生み出していることがわかる。

町の、このような背景を知ることで、この町がまた違った魅力を呼びてくるのである。



(右ページマップ⑪)



(右ページマップ⑫)

岡田隆夫さんは、上がりが良いと柿渋染めにこの水を利用する。住民が愛し大切にする現役の井戸である。



(上マップ⑦)



藤田ハウス「山草」
手づくり満載！
カメのカメ吉が大好きな藤田正晴さんのお宅には、ステキなお庭がある。そこにあるものはほとんどが手づくり！ なかでも見晴し台や東屋は笠置の山の木を使ってできている。見晴し台は二階建てで、目の前にある山々の四季の移り変わりを眺めるために、工事期間三ヶ月をかけて制作。以前は二階でハンモックをかけて桜や紅葉の風景を眺めていたらしい。



浮く商工会

昔は、道路寄りの斜面に建てられていました笠置町商工会は大雨が降るたびに川が入口側の前面道路まで増水し、浸水被害を受けていました。その対策として、前面道路から建物をセットバックさせ、道路の高さに入口を合わせて建てた。それが、この浮いたように見える建物の生き立ちである。



①ガレから完全にとび出た3D車庫。
②高床の家。高床にしたことで湿気がなく、物置代わり。
③谷川木材株式会社の事務所。レトロでかわいい！
④和田理髪店のお店。
⑤?? 石垣に歴史ある天空の城ラピュタみたい！



⑥立派な石垣ライン。
⑦はりめぐらされた
⑧石垣がきれいな
⑨サザナミ美容室。
⑩石垣が堤防になる
お城かっ！
水路。
⑪石垣が堤防になる
浮いている車庫。家。水と生きる知恵。
3D すぎる。



笠置の知恵の実 たわわ

うれしい、たのしい、暮らしおの知恵の実

笠置の里にみるのは、みかんや柿ばかりじゃありません。坂の途中のベンチを利用する人、ご近所への心遣いを忘れない人、三十年以上もサルとたかいる人。ほら、暮らしの「知恵の実」だって、こんなにたわわ。

共有ベンチで語ろう

急坂が多い西部区では、道端の所どころにベンチが設置されています。「おい」と近くにお住まいの藤田正晴さん。気軽に憩して使っているみた



「誰か座つてくれないかなあ?」



掲示板とポスト



やさしさが生んだ

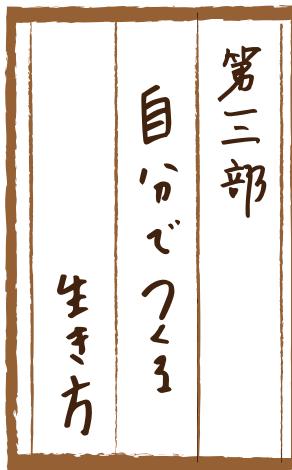
通りから丸見えの家族の予定表も、石垣に吊るされたポストも、やさしい中西正範さんの粹な計らい。不在時に来客があるても帰宅時間が一目で分かるし、通りに面してポストがあれば新聞配達の手間が省ける。少しの心遣いで近隣の人々が暮らしやすくなる。そんなライフスタイルのお手本です。



「のっそのっそとやってくるんよー」と北山登志博さんとおかさま。庭の木にぶら下げた人形はサル除外。山ザルとは三十年來のライバルだ。今年も柿を全部平らげられたと悔しがる。今日も続くサルとの知恵比べ。グッドアイデア募集中です(笑)。



笠置町 南部青年団って？



笠置町南部青年団には、20代中心の男女14人が所属しています。10月の秋まつりで「夜みこし」を担いで練り歩くのは、青年団の大きな役目。団員はみんな秋まつりを楽しみにしていて、「前日はドキドキして眠れない」というメンバーも。女性陣も、料理をつくったり夜道をライトで照らしたりと、普段以上に気合いが入ります。

親の世代から代々受け継がれてきた青年団ですが、人数が減ってきたことを受け、平成25年にあらたに規約をつくり直しました。今年はさらに、町内の子どもたちが集まるきっかけづくりや、お墓の掃除などのお手伝いにも、積極的に取り組みたいと考えています。地区外や町外からでも、やる気のある方にはどんどん参加してもらいたいです。



笠置町南部青年団団長
小林慶雅さん

青年団が詠じ、イカす笠置俳句

「結婚して子どもがいたら、絶対笠置で子育てしたい！」と話す、笠置が大好きな団員のみなさん。その思いと、青年団の自己紹介とを、それぞれ一句に込めていただきました。



「今は最高のメンバー」と声をそろえる青年団のみなさん。個性はさまざまでも、町を盛り上げたいという思いは同じ。青年団のにぎやかで楽しい活動は、これからも続いていきます。



「食の里、切山 こ里を耕すこだわりこ

「切山のすべてが好き」

と満面の笑みで語る吉川道子さん。山の斜面に集落が立ちならび、集落の横には棚田が広がります。斜面に沿つたくねくね道が続く切山。お世辞にも便利とは言えないこの地に、「時間に縛られるのでなく、自分で時間をつくることができる」という理由で二十三年前に移り住みました。都会とは違う生活観自分で生活をつくっていくワク感。ゆったりとした時間がここには流れています。

自然の中で囲炉裏を囲むみんなのほっこりスポット「よし川サロン」

斜面に広がる棚田を楽しみながら、くねくね道をのぼった先、深い森のすぐそばに「よし川サロン」があります。

暖簾をくぐると、そこはまるで異空間。大胆な吹き抜けの大広間と四季折々の景色を一望できる大きな窓。エネルギーな吉川さんが愛情を込めてつくってくれる料理をほおばりながら、世界をまわってきたおかあさんの人生観の変わった話を聞いてみませんか? おかあさんより、「ふうっと来てやー!」(マップ②)



笑顔がすてきなおかあさん。吉川さんが選んだ海外のがここ切山。



テーマは「みんなが集まれる家」の吉川邸。暖簾がかかっているのが目印!



広いベランダを観客席に。あなたも吉川邸でイベントを開催しませんか?



吉川さんお手製のおにぎりを持って、切山散策。動物を探しに行こう!



囲炉裏を囲んでみんなで食べるごはんは格別。こんな大きい鍋見たことない!



旅行好きのご夫婦の各國コレクションがならぶ居間。山奥の高級旅館のよう。

そんな吉川さんが
切山に住んだ理由

山の斜面に広がる切山の棚田。しかも南側に広がる畠田当たりのよい斜面には、何年もかけて湧き出た「岩清水」があります。二十三年前に移住したときには、まだここには水が豊かなこの土地では、人だけではなく、野菜や動物も、その恩恵を受けています。里を散策すれば、きれいな水や緑を求めてやってきた鹿やうさぎに、ひょととして出会うことができるかも!?

(棚田マップ②)



吉川夫婦が移り住み、整備した岩清水。夏でも冷たく、ジュースやビールの冷蔵庫代わり。

笠置は本当に食の里!!



フルーツランド切山
梅、柚子、柿。日当りの良さと豊富な水でフルーツランドも夢じゃない!?



④こりっこりの手づくりこんにゃく
(きりやま 21)
地元のこんにゃく芋を100% 使用。こりっこりの歯ごたえを刺身でどうぞ!



⑤万願寺とうがらしのジャム
(上村野菜工房)
地元の万願寺とうがらし使用の少し甘みのある手づくりジャム。



⑥切山特産! 山の幸の佃煮
(松本農林)
笠置漬けは、しいたけ、さくらげ、たけのこなどの山の幸を手作業で漬け込んでいます。ごはんのおかずにどうぞ!

笠置町 MAP
<切山区>



③ジャンボ柚子
通常の約10倍。ジャムがオススメ。11月頃には駅前直売所で買えるかも!?



②一面に広がる棚田
これぞ里山。秋晴れの早朝、稻刈りを終えた眺めは絶景! 眼下の雲海も必見。



⑦鮎の友釣り
木津川の鮎の友釣りは、潜没橋と笠置大橋付近がおすすめ。6月1日解禁。



切山と野菜のことをなんでも知っている植田さん。切山も生まれ育ち、今も畑作業を毎日欠かしません。

それを復活させるのはあなたかも!?



人と歴史のミュージアム

こ来るたびに新たに発見 ごとろんごとろん

飛び越える 時代織り成す 鉄水車

「うわ！何だこりや！」

飛鳥路の集落を歩いていて、

ると、古く赤茶けた大き

な鉄の水車が転がってい

た。案内してくれた飛鳥

路区の区長の西窪さん

と、水車の近くに住む辰

己さんと一緒に、その周

辺を掘つてみると、すると

なんと石の臼が出現！

辰己さんがおっしゃるに

は、約六十年振りの再会

だそうだ。



辰己さんのお話をもとに描き起した当時の水車小屋のイメージ。

辰己照夫さん



西窪量さん



現在、飛鳥路で区長を務める西窪さんは、60代だが地区では若手の区長だ。今年の1月5日には、初めて矢を射る大役を務めた。奥さんの明子さんもハツラツとした笑顔で、その表情にこちらまで元気が出る。

勧請縄に思いを託し、紡いでいく。
本当の豊かさを知っている飛鳥路の人びと。

仲西弘さん



異秀男さん



勧請縄にはやわらかいもち米の藁が欠かせない。かつては各家から持ち寄ったが、高齢化が進み継続が不可能に。10年前から稻藁作りというこの大切な役割を、異さんが担っている。

(勧請縄→P8,9)



*この俳句は、笠置小学校三年生の作品。
笠置について詠んだこの一句に大いに共感して、
この章の副題とさせていただきました。





わたしたちが笠置を探りました

笠置町 探られる里
プロジェクトメンバー

井ノ内 勇夫	岡田 隆夫	加藤 光太郎
小森 美紗	後藤 榛	川崎 隆次
西條 繁	楠瀬 葵巻	楠瀬 裕子
小林 慶昭	葛谷 五島	加藤 洋
大輔	後藤 加藤	光太郎
省吾	楠瀬 加藤	
裕子	葛谷 五島	
大次郎	後藤 加藤	

(計三十九名)

吉川 道子	山崎 均	藤澤 聰子	中西 嶽
渡邊 健吾	森本 晴香	藤岡 権口	中西 隆夫
吉川 道子	森本 嘉代美	西浦 遊	新倉 遊
山崎 均	森本 哲生	西浦 陽二郎	
増田 純子	宮田 裕美	半田 忠雄	
増田 純子	松井 朋子	西村 典夫	
ベトレス 龍摩	藤澤 聰子	西浦 遊	
増田 純子	西浦 遊	西浦 陽二郎	

石川 懇代治

今井 悅子	植田 隆夫	仲井 丈郎	富山 多恵子
坂本 政夫	植田 幸夫	中井 仁司	
阪井 英人	内垣 延夫	中西 弘	
坂本 登志博	奥田 均	中西 正範	
きりやま 21	鎌田 つた子	二浦 久功	
久保田 美希	上村 恵子	西林 勝之	
小谷 正之	北山 登志博	藤田 西洋	
小谷 正之	鎌田 仁志	藤田 西洋	
小谷 正之	植田 幸夫	西浦 七海	
小谷 正之	仲井 仁司	西林 勝之	
小谷 正之	中井 仁司	藤田 西洋	
小谷 正之	中井 仁司	西浦 七海	

笠置町商工会

竹本 義隆	坂本 英人	坂本 英人	松本 俊清	松本 俊清	藤田 西洋
芝井戸講	阪井 政夫	阪井 政夫	増地 隆	増地 隆	西浦 七海
谷 真己	坂本 登志博	坂本 登志博	藤田 西洋	藤田 西洋	西浦 七海
異秀男	きりやま 21	きりやま 21	西林 勝之	西林 勝之	西浦 七海
谷 真己	久保田 美希	久保田 美希	藤田 西洋	藤田 西洋	西浦 七海
谷川木業	北山 登志博	北山 登志博	西林 勝之	西林 勝之	西浦 七海
谷川木業	小谷 正之	小谷 正之	藤田 西洋	藤田 西洋	西浦 七海
谷川木業	藤田 西洋	藤田 西洋	西浦 七海	西浦 七海	西浦 七海
谷川木業	西浦 七海	西浦 七海	西浦 七海	西浦 七海	西浦 七海

お世話になつたみなさん
笠置町内の



メンバーの感想相談

地の人間ですが知らなかつたもの多くにびっくり。新しい発見ができました。

いつか耕作放棄地を利用してもつと切山をフルーツランドにしたい！
ワインリーとか合うんじゃないかな。
突然家にお邪魔してもみんな協力的で驚きました。
笠置の人は温かいなあ。

町の人と関わって、人とのつながりの大切さ、「積み重ね」の大切さが強烈にわかつた。いい経験になりました！

沢山の人が笠置について楽しく語つていて楽しかった。

一番よかつたことは町民の方も知らない歴史を見たことです！

今まで知らなかつた笠置を知れた。他の市町から来て頂いている方が意外な所に着目していることに驚いたり、逆に新鮮でした。

伝統を継承する中、継ぐ役になりたい（なれたらいいなあ）。

江戸時代に帆船で笠置から京都伏見まで荷物を運搬したとあり、帆船をつくってみたい！できるかどうかわかりませんが、私の夢です。

町の人と話してみると、何気ない風景の中に意味があつた。話してみて初めてわかる生活の中にあるおもしろさ、もっと知りたい！

ありがとうございました！

